

(別紙5)

整理番号 2019P-088
補助事業名 2019年度 検診車の整備 補助事業
補助事業者名 一般財団法人 北陸予防医学協会

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

富山県では、40歳代からの死因の第1位はがんで、50～60歳代では4割を超えるなど、働き盛りの年代でがんに罹患する人が多くなっています。がん検診受診率は、肺がん・胃がんで横ばい・減少傾向にあります。全国と比較して高いものの約10%で、働く世代のがん検診受診率の向上が課題です。富山県の所管部署や医療保険者より、特定健康診査及び生活習慣病健診の受診率向上が求められていますが、小規模事業所では検診車のスペース確保やスタッフ確保ができないこともあり、受診者数が伸び悩んでいるのが現状です。

県内全域の巡回検診体制を維持し、中小事業場における働き盛りの勤労者・家族から地域の高齢者まで、「安心・安全・快適」にできるだけ多くの受診機会を提供します。がんの早期発見及び生活習慣病の予防を推進し、事業主や医療保険者・市町村と協力し、県民の生活習慣病健診及びがん検診の受診率向上を目指します。検診車は効率的運用を行い、また多様化する受診者にも対応できる車両確保を目指します。

(2) 実施内容

胃胸部併用X線デジタル検診車

<http://www.hokurikuyobou.or.jp/information/hojo.html>

○車両外観



(別紙5)

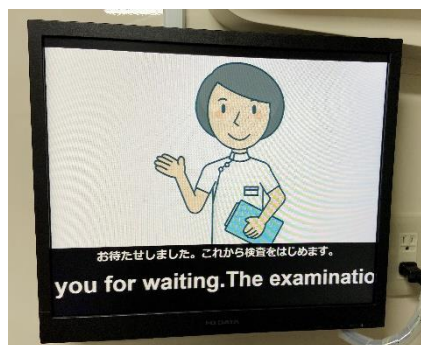
○ステップ



○胃胸部室内



○言語パッド



○待合室



2 予想される事業実施効果

胃胸部併用の車両であり1台の車内につき2種のがん検診ができ、受診者の負担軽減により利便性が高まり受診者数の増加がみこまれます。また最新機器の導入により、健診の精度向上がみこまれます。

3 印刷物等

広報誌『ヘルス・ビュー』に寄稿
※2020年5月に発行予定

胃胸部併用X線デジタル検診車を導入

今年の2月、健康管理センターに、デジタル撮影式の胃部・胸部併用車を導入いたしました。

この検診車は、最新デジタル装置を搭載しており、鮮明な画像が即座に得られ、微小病変発見のニーズにも応えることができます。

これまでの検診車との大きな違いとして、1台のバス内に胃部X線検査室と、胸部X線検査室の2室があり、胃部検査と胸部検査を同時に行うことができます。

そのため、併用車1台としての撮影効率の大幅な向上が見込まれ、また、小規模な検診会場でも1台で胃胸部の検査が可能になり、今後多くの現場での活躍が期待されます。

胃部撮影装置には、受診者がバリウムを飲む時や、体の向きを変えてもらう際に、耳が聞こえずらい方や外国の方にも安心して検査が受けられよう、8か国語に対応した音声と表示に加え、手話の映像を表示するパネルを設置しました。

また、車内全体は北陸初のハイブリッド触媒でコーティングがされており、24時間365日、抗菌作用が期待されます。ハイブリッド触媒は鉄イオンの強力な酸化力により、悪臭物質や細菌類を破壊および分解する新しいタイプの抗菌・消臭機能材であり、電気を必要とせず、空気さえあれば働き続けるエコな優れた素材です。

これにより、常に清潔で悪臭のない空間で検診を受けていただくことができます。

今回導入させていただいた検診車は、経緯やオートレースを統括する公益財団法人JKA(東京)様から、3,100万円の助成を受けております。この検診車を活用し、これからも精度の高い画像診断を実施し、がんの早期発見に役立っていきたいと思います。

(別紙5)

4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名： 一般財団法人北陸予防医学協会（ホクリクヨボウイガクキョウカイ）

住 所： 〒930-0177

富山県富山市西二俣277-3

代 表 者： 理事長 永田 義邦（ナガタ ヨシクニ）

担 当 部 署： 管理部 総務人事課（カンリブ ソウムジンジカ）

担 当 者 名： 黒崎 雅紀（クロサキ マサノリ）

電 話 番 号： 076-436-1238

F A X： 076-436-1240

E - m a i l： m-kurosaki@hokurikuyobou.or.jp（担当者）

U R L： <http://www.hokurikuyobou.or.jp/>